

Heartful Day

北条高校人権委員会
平成27年1月14日
No. 87

DV（ドメスティック・バイオレンス）

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは「親密な関係にあるパートナーからの暴力」のことをいいます。「暴力」とは、身体的、精神的、性的、経済的など、多面的な要素を含んでいます。相手に何かを伝えようとするとき、相手が夫婦や交際相手だからといって、暴力が正当化されていいわけではありません。暴力は、どんな状況においても犯罪なのです。

<いま日本では>

被害の内容	女性	男性
身体に対する暴行を受けた経験がある	32.9%	18.3%
執拗な暴力を受けた経験がある	10.6%	3.3%
配偶者間（内縁を含む）における犯罪で殺される	106件	49件

（内閣府男女共同参画局 配偶者からの暴力に関するデータ 平成26年7月より）
このような統計的事実から、DVの問題は決して特別で例外的なことではありません。



デートDVを知っていますか？



デートDVは、「交際相手からの暴力」をいいます。国際ソロプチミスト新居浜みなみの意識調査では、愛媛県新居浜市の高校生の12.8%、8人に1人がデートDVを受けたり与えたりした経験があるという結果が明らかになりました。

<高校生が経験したデートDVの例>

- ・異性の友達と仲良くしていると責める
- ・電話に出なかったり、メールをすぐに返信しなかったりすると怒る
- ・異性の友達と仲良くしていると責める
- ・携帯電話の番号やメールアドレスを消す
- ・キスや性行為の強要
- ・殴る、蹴る、髪の毛を引っ張るなどの暴力
- ・お金の支払いや高価なプレゼントを要求する



デートDVについて、「暴力を振るわれる側にも問題がある」や「恋人を大切にするため束縛は当然」、「少々暴力は我慢すべきだ」などとDVを容認している生徒がいるようです。小さな束縛が、やがて暴力やストーカー行為につながる恐れがあります。被害を未然に防ぐためにも正しい知識をもって対等な関係を築くことが大切です。



DVかな?と思ったら



ひとりで悩まないで、保護者や先生に相談したり、相談機関（女性センター、福祉事務所、警察署など）に連絡してください。我慢してひとりで抱え込んでいると、暴力は次第にエスカレートする傾向があります。

また、あぶない状況にあるのではないかと心配される人がいたら、相談に行くように伝えてください。なかなか勇気が出せないようであれば、一緒に行ってあげると心強いかもしれません。DVの被害者のなかには、悪いのは相手ではなく自分のせいだと感じてしまったり、自分がDVの被害にあっているということを自覚できず、DVから抜け出せないでいるケースも多いようです。



DVを防ぐためには



1 絶対に暴力を振るわない

どんな事情があったとしても、暴力を振るっていいという理由にはなりません。暴力は、絶対に許されるものではないことを認識しましょう。暴力を使わずに問題を解決できる方法を見つけましょう。

2 自分の気持ちを大切にす

自分の気持ちを大切にす、自分が嫌なことは、相手に対してはっきり「NO!」と言いましよう。もちろん自分ばかりではなく、相手の「NO」も受け入れることが必要です。

3 相手を尊重する

相手の話に耳を傾け、相手の気持ちを思いやりましよう。自分の気持ちや考えを相手に押しつけないで、自分とは違う相手の気持ちや考えを認め、受け入れましよう。

担当：1年2組、1年3組

次回の放送は、2月4日です。お楽しみに...

お願い

今日の放送を聞いて生徒の皆さんの感想や、この資料をご家庭に持ち帰ってご家族の方と話し合ったこと、ご感想などをお寄せください。提出は、ホームルーム担任まで

切り取り線

第8回ハートフルデー

()年次 生徒 or 保護者

Large empty rectangular box with a dashed border, intended for student or guardian responses.